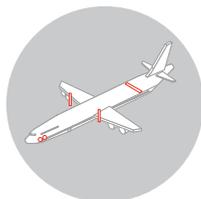
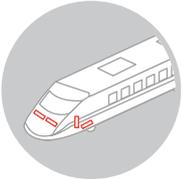
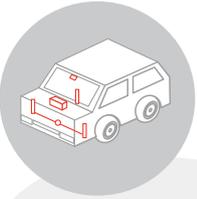




*Our Precision, Your Advantage*

# 環境・社会報告書 2017



# 人財の活躍推進と革新的なモノづくりで 持続可能な社会の実現に貢献してまいります

KYB株式会社  
代表取締役社長執行役員

中島康輔

## はじめに

KYBは、ステークホルダーの皆様の温かいご理解とご支援に支えられ、1935年の創立以来、振動・パワー制御技術を核としたトップメーカーとして、グローバルで成長を続けてきました。KYBの製品は、今日も世界中の至る所で地域の人々の暮らしを支え、安全・安心・快適さを提供しています。今年度は、2017中期計画の初年度にあたりますが、これからもKYBは変わることなく、「人々の笑顔につながるモノづくりから、豊かな社会づくりに貢献し続ける信頼のブランド」として、使命感と喜びをもって次なる3カ年の飛躍に向かって力強い一歩を踏み出したいと思えます。皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 2016年度を振り返って

2016年度のKYBグループを振り返ってみますと、中国の景気減速、新興国の景気低迷などの経営環境の変動を受け、中国や長野地区の経営統合をはじめとする抜本的な構造改革、固定費削減などの諸施策、その一方で、積極的な受注活動によるグローバル拡大路線を推進してきまし

た。その結果、2016年度後半は、構造改革の効果や中国建機市場の底打ち感などによって、グループ連結業績は回復に転じました。

2017年度は、前中期計画で解決できなかった課題を先送りせず、確実に解決に導きながら、急激な環境変化に対しても柔軟に即応できるような経営体制と収益基盤の構築に向けて、組織・製品・拠点などのあらゆる面において、更にスピードを上げて抜本的構造改革を進めてまいります。

## KYBグループの社会・環境への取り組み

KYBグループは、2017中期計画において、すべては現場中心という、モノづくりの原点に立ち返り、生・販・技一体活動で、品質改善、生産性改善、お客様対応、お取引先様との協働、事業貢献、公正取引(法令遵守)に取り組んでまいります。現場中心の改革により、お客様、そして社会に最高の技術と品質、そして信頼をお届けすることによって、社会の持続可能な成長に貢献し続ける企業集団を目指します。また、従業員一人ひとりが、企業存続の基盤は社会にある



ことを認識し、常に市民感覚を大切に、企業外の異文化や情報を積極的に吸収するように努め、社会の健全な発展に貢献する「良き企業市民」として意識し実践するよう、KYBの行動指針において明らかにしています。地域社会との協調を図るべく、毎年さまざまな地域イベントを主催、協賛し、たくさんの従業員が参加しています。

自然環境の保護については、KYBグループは事業展開に当たって、国内外を問わずグローバルで環境保全の諸活動を展開しております。自然をよく知り、環境を大切にするという企業としての姿勢は、我々が開発する環境保全に貢献する製品づくり、あるいは環境負荷を低減する製品づくりにも表れております。

KYBグループの社会・環境への取り組みを、本報告書を通じてご理解いただき、より多くのステークホルダーの皆様から引き続きご支援いただければ幸甚です。また、本書に関する感想のみならず、KYBグループに対する忌憚のないご意見をお寄せください。

## Contents

- 2 トップメッセージ／目次
- 4 KYBグループの目指す姿
- 6 KYBグループ概要
- 8 こんなところにKYB
- 10 **2016年度活動ハイライト**

### 環境報告

- 14 **環境マネジメント**
  - 環境基本方針
  - 環境保全目標
  - 化学物質の管理
- 16 **環境負荷の低減活動**
  - 生産拠点活動

### 社会性報告

- 18 **お客様とともに**
  - お客様満足度向上の取り組み
- 20 **お取引先様とともに**
  - パートナーシップの構築
- 21 **地域社会とともに**
  - 社会支援活動
- 24 **従業員とともに**
  - 人財の活用と職場環境づくり
  - 人財育成と技術力向上
  - 従業員コミュニケーション
- 27 **安全で働きやすい職場づくり**
  - 労働安全衛生

### マネジメント報告

- 28 **経営マネジメント**
  - コーポレートガバナンス
- 29 **内部統制／コンプライアンス**
- 30 **環境データ編**
- 30 **編集方針**

本レポートの内容は、当社のWebサイトにも掲載されておりますのでぜひご覧ください。

<http://www.kyb.co.jp/company/csr.html>

# Our Precision, Your Advantage

企業の社会的責任がますます重要視される中、KYBグループではステークホルダーの皆様の満足を得られる企業グループとなることを目指し、経営理念のもと、私たち一人ひとりが企業の責任を自覚し、法令を遵守し行動に結びつけ、信頼される企業であり続けるために企業価値向上を図っていきます。

## ステークホルダーの皆様との関係



### 経営理念

人々の暮らしを安全・快適にする技術や製品を提供し、  
社会に貢献するKYBグループ

- 1.高い目標に挑戦し、より活気あふれる企業風土を築きます。
- 2.優しさと誠実さを保ち、自然を愛し環境を大切にします。
- 3.常に独創性を追い求め、  
お客様・株主様・お取引先様・社会の発展に貢献します。

### ビジョン

#### 人財育成

方針や戦略を深く理解し、情熱をもって目標を完遂できる人財を育成する。

#### 技術・商品開発

世界のお客様が感動し、安心し、そして信頼される商品を提供する。

#### モノづくり

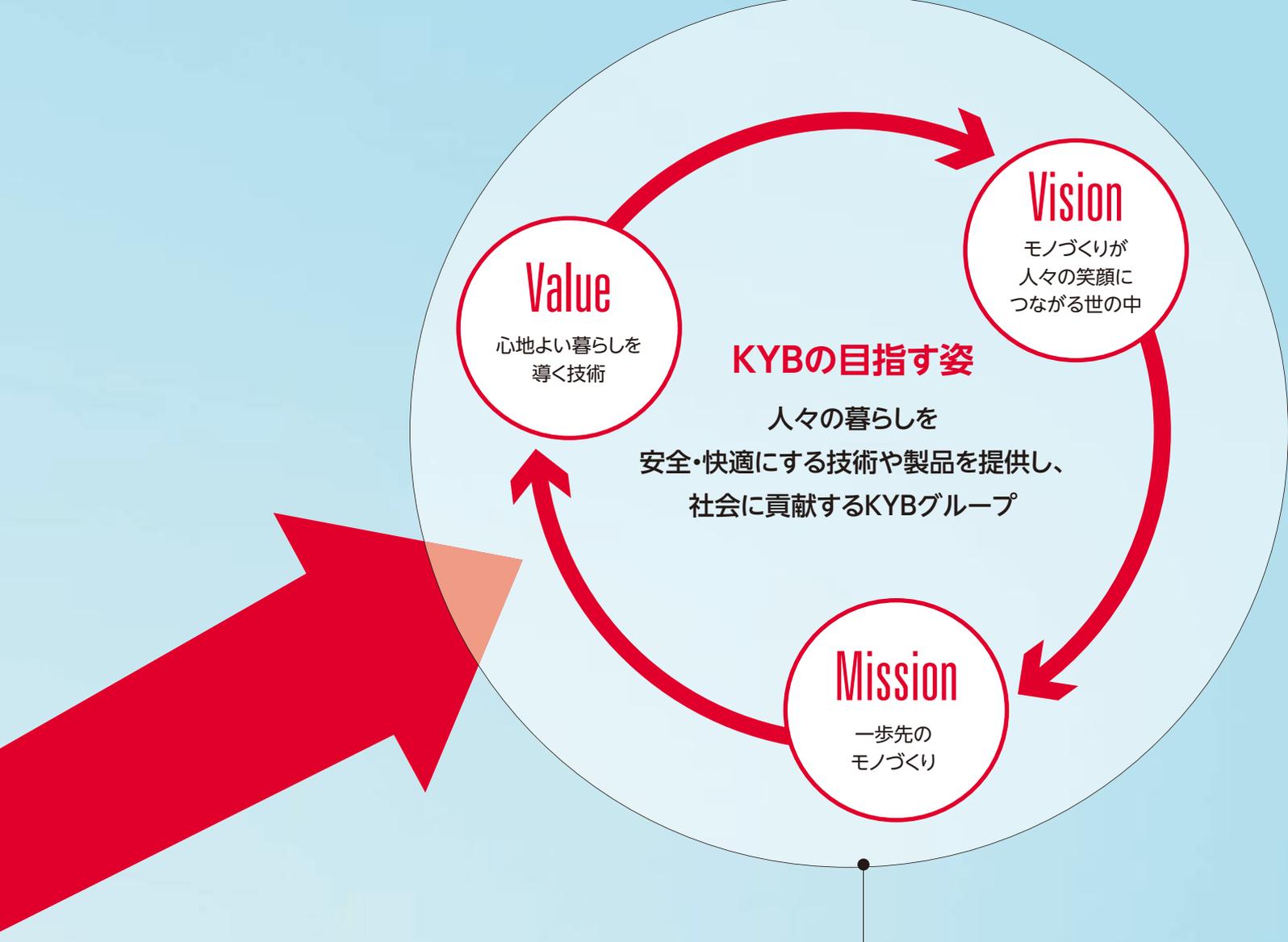
お客様が満足する商品をつくる喜びと躍動感に溢れ、同時に現場主義に徹した緊張感のある工場にする。

#### マネジメント

企業の社会的責任を常に自覚し、効率のよいグループ経営を行う。

### 行動指針

- |                |                     |                 |                    |
|----------------|---------------------|-----------------|--------------------|
| (1) 企業倫理の確立と実践 | (8) お取引先様との取引       | (14) 企業秘密の保持    | (20) 安全衛生          |
| (2) お客様第一主義の徹底 | (9) 迅速な苦情処理         | (15) 個人情報の保護    | (21) 教育および能力開発     |
| (3) 製品安全の追求    | (10) 業界団体等、諸団体の活動参加 | (16) その他会社財産の保護 | (22) 差別行為の禁止       |
| (4) 適正な会計・決算処理 | (11) 反社会的勢力との決別     | (17) 地域社会との共生   | (23) ハラスメント行為の禁止   |
| (5) 情報開示       | (12) インサイダー取引の禁止    | (18) 自然環境の保護    | (24) 児童労働、強制労働の禁止  |
| (6) 法令の遵守      | (13) 知的財産権の保護       | (19) 労使協調       | (25) 良好な職場環境の維持・改善 |
| (7) お客様との取引    |                     |                 |                    |



## KYBグループの社会的責任

KYBグループでは事業活動の中で常に独創性を追い求め、お客様・株主様・お取引先様・社会の発展に貢献することを目指しています。

当社では経営理念とビジョンに基づいたCSR活動を各部署の年度実施項目に掲げ実践しています。そしてその行動をチェックして改善改新のサイクルを継続して実践しています。

従業員は当社の行動指針を携行しており、CSR(企業の社会的責任)の重要性の認識を深めています。

## Vision

KYBブランドが実現したい世界

モノづくりが人々の笑顔につながる世の中

KYBが目指すのは、モノづくりのよるこびが社会の発展を支え、人々の笑顔につながっていく、そんな世の中です。

## Mission

KYBブランドが果たすべき使命

一歩先のモノづくり

KYBは、これまで培われてきた確かな技術力を生かして、お客様や市場に価値ある提案のできる企業であり続けます。新しい価値やかつてない満足をお得意先様に提供していくために、自らの足で、一歩先に進んだモノづくりを実践していきます。

## Value

KYBブランドがお届けする価値

心地よい暮らしを導く技術

感覚的価値：心地よい暮らし、モノづくりのよるこび

機能的価値：確かな品質

KYBがエンドユーザーに約束する価値。それは、独創的な技術と真摯な製品開発がもたらすワンステージ上の「心地よい暮らし」です。

KYBがお得意先様に約束する価値。それは、エンドユーザーまでも「お客様」と考えることから生み出される「確かな品質」です。

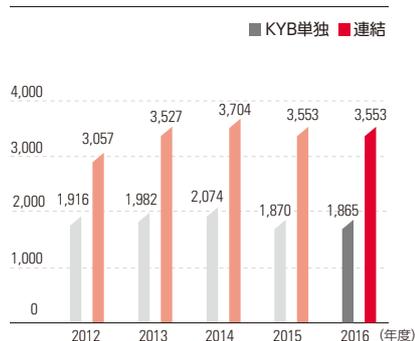
KYBが従業員に約束する価値。それは、一人ひとりが世の中を変えていくことを実感できる「モノづくりのよるこび」です。

## KYBグループ概要

### 会社概要

社名	KYB株式会社	工場	熊谷工場、相模工場、岐阜北工場、 岐阜南工場、岐阜東工場
創業	1919年(大正8年)11月19日(萱場発明研究所)	研究・開発センター	基盤技術研究所、生産技術研究所 開発実験センター、工機センター、電子技術センター
創立	1935年(昭和10年)3月10日(株式会社萱場製作所)	従業員	連結：14,350名(2017年3月末現在) 単独：3,715名(2017年3月末現在)
設立	1948年(昭和23年)11月25日(萱場工業株式会社)		
本社	東京都港区浜松町二丁目4番1号世界貿易センタービル		
代表者	代表取締役社長執行役員 中島 康輔		
資本金	276億4,760万円(2017年3月末現在)		

売上高の推移 (億円)



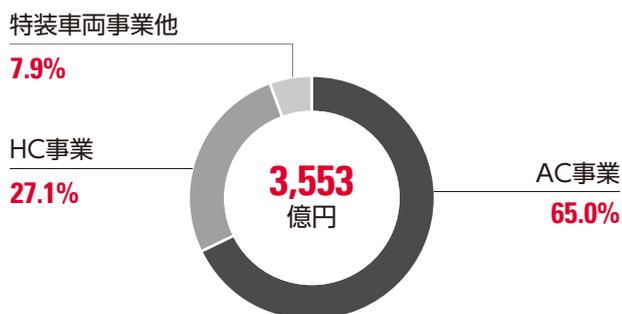
従業員数の推移 (名)



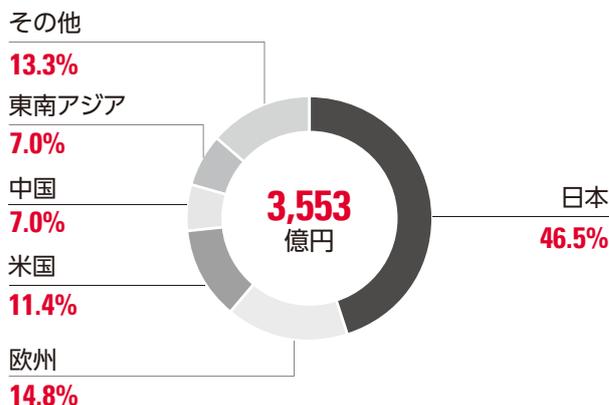
### 主な事業内容

AC(オートモーティブコンポーネンツ)事業	ショックアブソーバ、サスペンションシステム、パワーステアリング、ベーンポンプ、フロントフォーク、オイルクッションユニット、ステイダンパ、フリーロック
HC(ハイドロリックコンポーネンツ)事業	シリンダ、バルブ、鉄道車両用オイルダンパ、衝突用緩衝器、ポンプ、モータ
特装車両事業、航空機器事業 システム製品および電子機器等	コンクリートミキサ車、粉粒体運搬車、特殊機能車、航空機用離着陸装置、同操舵装置・同制御装置・同緊急装置、シミュレータ、油圧システム、舞台機構、艦艇機器、トンネル掘削機、環境機器、免制震装置、電子機器

2016年度事業別売上高の構成(連結)



2016年度地域別売上高の構成(連結)



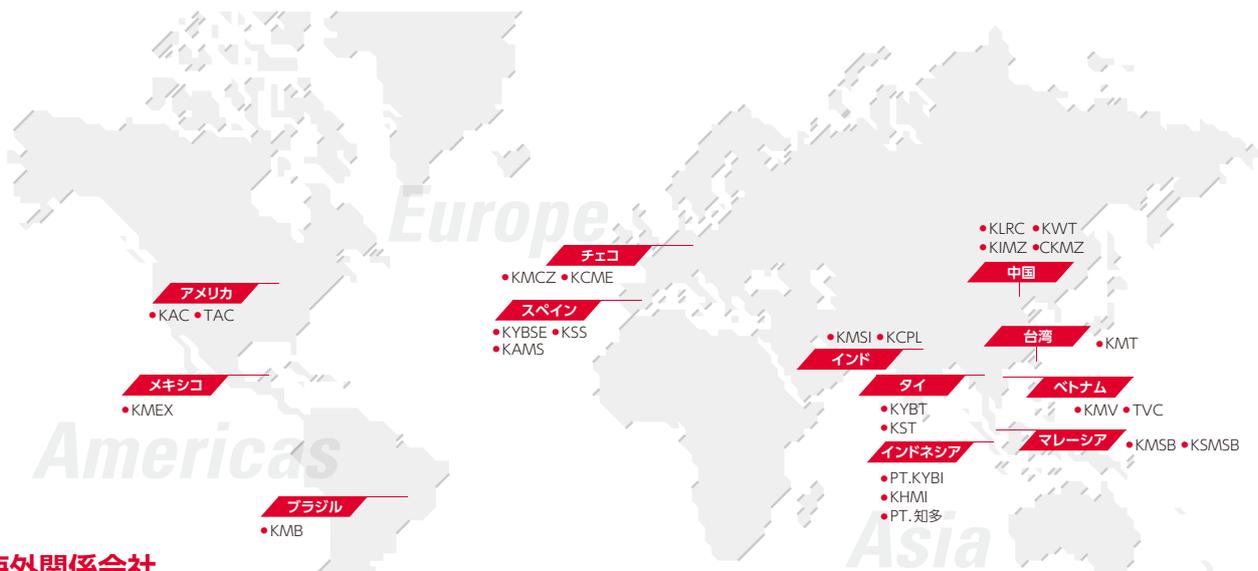
※ 記載されている売上高および対象範囲の詳細は、有価証券報告書をご参照ください。

## 国内関係会社

カヤバシステムマシナリー株式会社(KSM)  
 KYBトロンデュール株式会社  
 KYB-YS株式会社  
 KYB金山株式会社  
 KYBモーターサイクルサスペンション株式会社(KMS)  
 株式会社タカコ



## KYBグループ生産拠点



## 海外関係会社

### Americas

KAC KYB Americas Corporation  
 TAC Takako America Co., Inc.  
 KMEX KYB Mexico S.A.de C.V.  
 KMB KYB-Mando do Brasil Fabricante de Autopeças S.A.

### Asia

KIMZ 凱迺必機械工業(鎮江)有限公司  
 KWT 無錫凱迺必拓普減震器有限公司  
 KLRC 常州朗銳凱迺必減振技術有限公司  
 CKMZ 知多彈簧工業(鎮江)有限公司  
 KMT 永華機械工業股份有限公司  
 KST KYB Steering (Thailand) Co., Ltd.  
 KYBT KYB (Thailand) Co.,Ltd.  
 KHMI PT.KYB Hydraulics Manufacturing Indonesia

PT.KYBI PT.Kayaba Indonesia  
 PT.知多 PT.Chita Indonesia  
 KMV KYB Manufacturing Vietnam Co., Ltd.  
 TVC Takako Vietnam Co., Ltd.  
 KMSB KYB-UMW Malaysia Sdn.Bhd.  
 KSMSB KYB-UMW Steering Malaysia Sdn.Bhd.  
 KMSI KYB Motorcycle Suspension India Pvt.Ltd.  
 KCPL KYB-Conmat Pvt.Ltd.

### Europe

KYBSE KYB Suspensions Europe, S.A.U.  
 KSS KYB Steering Spain, S.A.U.  
 KAMS KYB Advanced Manufacturing Spain, S.A.U.  
 KMCZ KYB Manufacturing Czech s.r.o.  
 KCME KYB CHITA Manufacturing Europe, s.r.o.

## 沿革

- 1919 萱場発明研究所を開設
- 1927 萱場製作所を創業
- 1935 (株)萱場製作所を創立
- 1948 萱場工業(株)を設立
- 1959 東京証券取引所に株式上場
- 1981 生産方式の呼称をKPSIに統一
- 1985 商号をカヤバ工業(株)に変更
- 1992 環境安全委員会を設置
- 1993 第1回全社スポーツ・文化交流大会を開催
- 1998 ISO9001の認証をKYB全工場が取得



創業当時の萱場製作所

- 1999 企業行動指針を制定
- 2001 ISO14001の認証をKYB全工場が取得
- 2005 新経営理念・経営ビジョン制定  
KYBを通称社名に採用
- 2008 第1回ロボットコンテストを開催
- 2011 開発実験センター開設・テストコース稼動
- 2015 商号をKYB(株)に変更



電子技術センター  
電波暗室内

開発センター内の  
テストコース



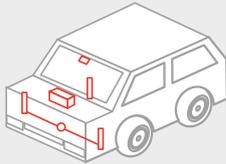
# こんなところにKYB

多くの「モノづくり」を支えるKYBの製品。

それらは人々の当たり前の毎日を支え、安全・快適を提供しています。

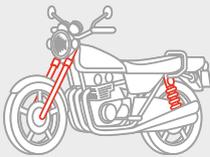
さまざまな場所で活用されているKYB製品をご紹介します。

## 1 自動車



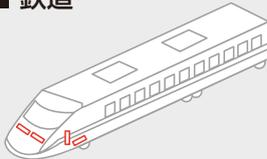
家族との快適なドライブ、過酷な条件を強いられるモータースポーツのシーン。すべての人を満足させるドライブパブリシティを追求する自動車機器

## 2 二輪車



速さと安全性を極めたレースの中で磨かれた技術で、常に最高レベルの走行安定性を追求し、高い運動性能を実現する二輪車用機器

## 3 鉄道



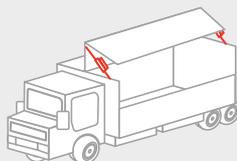
カーブ走行、対向車両とのすれ違いやトンネル突入時の風圧による横揺れを抑え、高速走行時における快適さを実現させる鉄道用機器

## 4 建設機械



過酷な状況で使用される建設現場でも活躍する建設機械用機器

## 5 産業機械



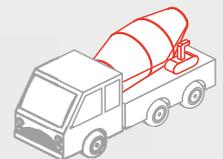
トラックなどの各種開閉装置を始め、様々な工場やオフィス・住宅の環境改善として使用されている産業機械用機器

## 6 産業車両



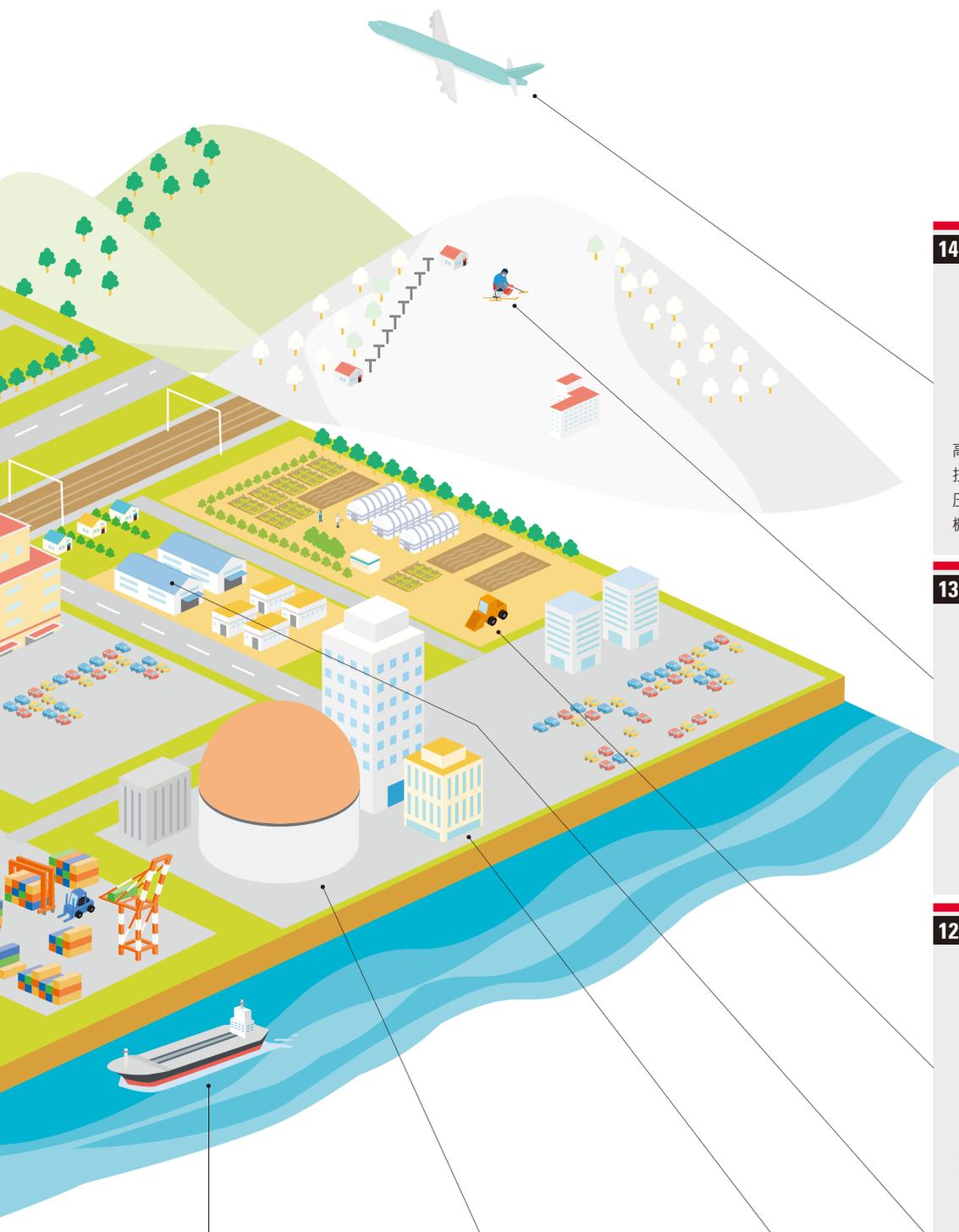
フォークリフトなどの産業用車両にもKYBの油圧技術が力を発揮。作業の効率化をパワフルにサポートする産業車両用機器

## 7 特殊車両

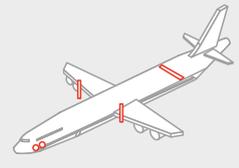


国内最大シェアを持つコンクリートミキサ車など快適な生活環境を支える特装車両





**14 航空機**



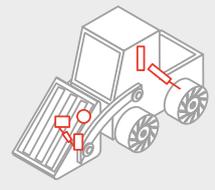
高い信頼性が要求される航空・宇宙技術分野で、操縦、降着、油圧・空気圧などに関して幅広く提供する航空機用機器

**13 スポーツ・環境・福祉**



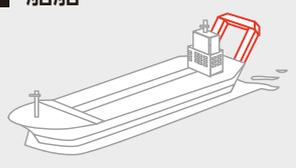
KYBのコア技術を生かしてスポーツや環境、福祉製品を開発

**12 農業機械**



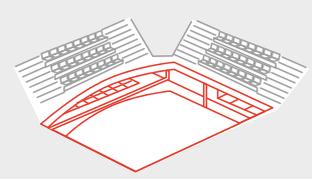
快適な農作業のために省エネ化、コンパクト化を実現した農業機械用機器

**8 船舶**



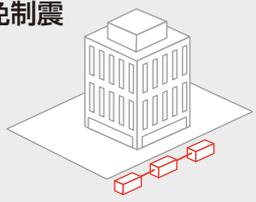
海底探索機や母船、輸送、補給、救助などKYBの油圧技術、張力制御技術が海上での快適な作業を支えています

**9 建物・舞台装置**



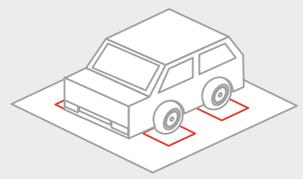
吊物や音響反射板などの、舞台における演出空間をKYBの技術が支えています

**10 免制震**



KYB独自の油圧技術を生かした免震および制震用のダンパのシェアは国内トップ。お客様との協働を基本とする徹底したマーケットインの思想のもと安全性を守ります

**11 試験装置**



各種シミュレータで、部品や製品の耐久性、性能の確認に使用される試験装置用製品

# 2016年度活動ハイライト

コアコンピタンスである「振動制御技術」「パワー制御技術」にシステム技術、電子技術を融合し、さまざまな分野のお客様の幅広いニーズにお応えします。

今回のハイライトでは、環境・安全に配慮した製品やグローバルな人材育成プログラム等を紹介します。



Highlight 01 ▶ [ 製品開発 ]

## レクサスLCへの比例ソレノイド減衰力調整式ショックアブソーバ採用

トヨタ自動車株式会社様の新しい取り組みであるTNGA (Toyota New Global Architecture)の第一弾となったプリウスに引き続き、次世代FR系プラットフォームとなるレクサスLCへ比例ソレノイド減衰力調整式ショックアブソーバを採用いただきました。本ショックアブソーバは、メインの減衰力調整機構部に比例ソレノイド弁を新規採用し、車両側ECU(エンジンの運転を総合的に制御するマイクロコンピュータ)からの電気信号により、減衰力を変化させることを特徴としています。ショッ

クアブソーバとは、車体の振動を吸収する役割を持つ製品で、車両の基本特性となる乗り心地と操縦安定性へ大きく貢献します。従来の減衰力調整式ショックアブソーバと比較して、減衰力を変化させる応答性を大幅に向上させ、ソフトモードからハードモードまで連続的にかつ滑らかに減衰力特性を制御することを実現しました。路面からの入力に対して瞬時に必要な減衰力特性を発生させることができ、あらゆる状況においても快適な乗り心地と高い操縦安定性を実現します。今後もお客様の期待に応える快適性と走りの楽しさを提供できる製品をつくり続けます。



比例ソレノイド減衰調整式  
ショックアブソーバ



レクサスLC500h

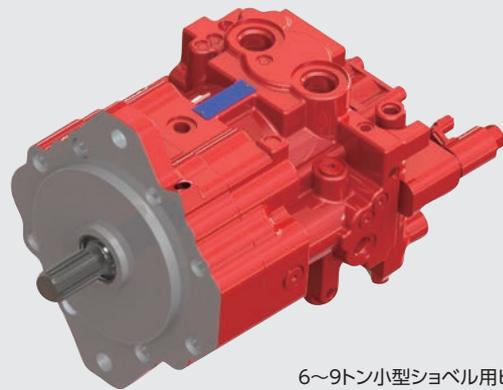
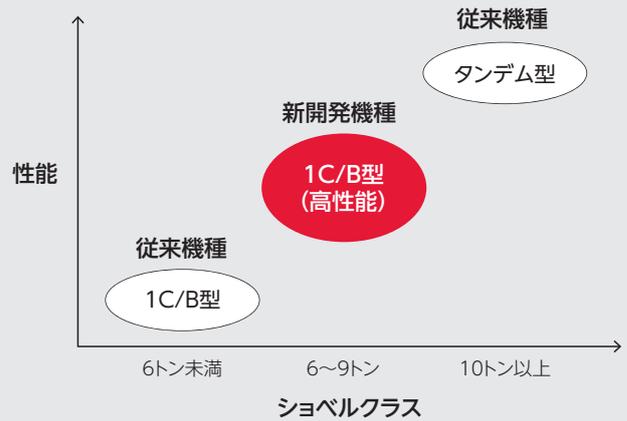


Highlight 02 ▶ [ 製品開発 ]

## 小型ショベル用 油圧ピストンポンプ

6～9トン小型油圧ショベル用ピストンポンプを開発しました。ポンプ基本構造として従来の1C/B型\*にタンデムポンプの付加機能を採用し、ポンプ全長を短くした小型油圧ショベル向けの高性能なピストンポンプです。流量制御機能として、ロードセンシング(負荷感応)制御機能を搭載しており、作業負荷に影響されない流量制御が可能です。また、ロードセンシング制御に可変ゲイン機能を追加することで、エンジン回転数を下げ、省エネ作業をしたいときでも作業速度を維持することができ、省エネと操作性の両立が可能となっています。さらに専用のロータリーパーツを新規開発し、ポンプのエネルギー効率を従来比で約4%向上させたことによりショベルの作業性向上と省エネ化に貢献します。

\*1C/B: シリンダブロックの略



6～9トン小型ショベル用ピストンポンプ



Highlight 03 ▶ [ 製品開発 ]

## T-Sオイルダンパ

東日本大震災後、南海トラフ沿いの海溝型巨大地震の想定震源域が見直され、従来設計の想定を大きく上回る長周期地震動の発生が危惧されています。このような地震が発生すると、免震層\*に過大な変形が生じ、周辺擁壁\*との衝突や免震装置の損傷などが生じる恐れがあります。この解決策として、ダンパの抵抗力を大きくして免震層の変形を抑制することが効果的です。しかし、頻度の高い中小地震に対して免震層の動きを阻害して免震効果を低下させてしまう問題がありました。

この問題の解決策として、大成建設株式会社様と共同で、以下の2つの条件を満たすダンパを開発しました。

- 1) 中小地震では適正な減衰力で高い免震性能を発揮。
- 2) 巨大地震や想定を大きく上回る長周期地震においては大きな減衰力に切り替わり、免震層の変形を抑制。



ダンパの建物への設置

これにより、擁壁衝突の危険を回避し、建物および建物内の人や財産の安全を確保できるようになりました。

\*免震層: 主に地下1階につくられることが多く、免震ゴムなどの支承部材とオイルダンパなどの減衰部材を設置する層である。主に地下1階に作られることが多い。

\*擁壁: 免震層の側面の壁のこと。免震層の横からの断面は凹型になり、この側面の壁が擁壁である



# インド向け大型コンクリート・ミキサ車の開発 MR8040X



MR8040X

インド市場で大型ドラムの需要が出てきており、KCPLでは2013年10月より販売してきた、積載量6m<sup>3</sup>のコンクリート・ミキサ車(以下ミキサ車)よりも多くの生コンを積載、運搬できる積載量8m<sup>3</sup>のミキサ車を新たに開発しました。

6m<sup>3</sup>のミキサ車はドラム駆動用にシャシ側の走行用エンジンとは別にミキサ駆動用のサブエンジンを架装物側へ搭載して使用していましたが、今回開発したMR8040Xは、サブエンジン駆動方式を見直し、P.T.O.(エンジンから動力を

取り出す装置)を介して直接ドラムへ動力を伝達する方式としました。このためサブエンジンが不要となったことで、約500kgの重量を低減することができました。

このドラムの大型化と軽量化によって、運搬回数の低減、移動時間の短縮、燃料費の削減をさせることが可能となりました。これからもお客様のニーズに合わせた製品と、環境に配慮したミキサ車を開発していきます。





Highlight 05 ▶ [人財育成]

# 女性の活躍推進

多様な人材が個性を生かし、新たな価値や競争力を生み出し続ける会社となるための一環として、より働きやすい環境を目指すため、女性活躍推進を展開しています。

その取り組みとして

- ①「能力開発・意識改革の研修」
- ②「働きやすい組織風土の醸成」
- ③「育児休職者への支援」
- ④「多様な働き方の支援」

の4項目を柱としています。



子育て交流会

※子育て交流会：  
育児休職中の従業員の不安を、子育て先輩社員との交流で和らげる企画。



第1回女性活躍推進委員会

VOICE

参加者からの一言



「表面的な施策ではなく、一人ひとりが生き生きと働くために何が必要かを考え活動していきたいと思っています」

CAE推進部相模分室長  
島田 美穂



「たくさんの従業員の声を反映しながら、働きやすい職場環境に向けて取り組んでいきたいです」

人事部(相模駐在)  
三瓶 宏美



2016年度は、女性の意識改革を目的とした「女性向けキャリア研修」や、その上司の意識を変える「女性部下を持つ上司研修」を実施しました。



女性向けキャリア研修

また、女性のための「子育て交流会」\*を実施しました。より多くの女性従業員の声を反映するために、KYB各事業所と国内グループ各社より女性の代表を選出してもらい女性活躍推進委員会(愛称:Harmony project)を立ち上げ、施策を展開しています。今後も「在宅勤務制度の導入」「ワークライフバランスの推進」「意識調査・風土づくり」を目指し、ダイバーシティの推進につなげていきます。

# 環境マネジメント



## 環境基本方針

### ◆ スローガン

守ります みどりの地球  
創ります 環境にやさしい製品

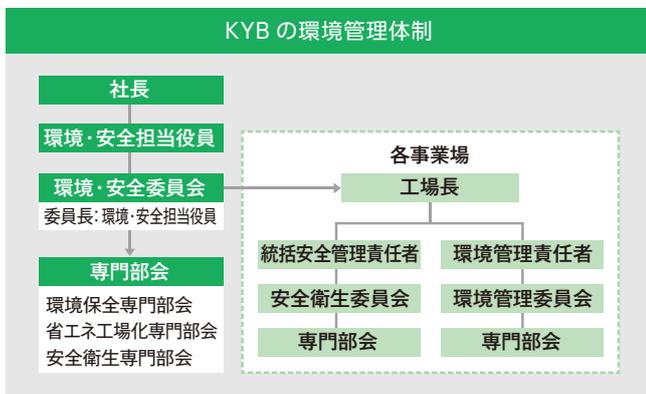
### ◆ 環境基本方針

人と地球にやさしい製品づくりをするとともに、環境保全活動を経営に対する評価の重要な指標と位置付け、積極的に推進していきます。

1. 環境への負荷の少ない循環を基調とした生産活動及び企業活動を整備、構築する。
2. 全社的、長期的かつ持続的な活動、展開を図る。
3. 地域社会との調和を図り、良き企業市民として社会に貢献する。
4. 一人ひとりの役割分担を明確にし、全員参加による活動とする。

### ◆ 環境・安全管理体制

環境・安全担当役員をリーダーとする「環境・安全委員会」を設置し、環境面と安全面に関する取り組みについて、同時に意思統一を図っています。以下の体制で行っています。



### ◆ 中期方針

#### 環境・安全に関わる中期方針について

2014年度から中期方針フェーズ2を策定しており、安全の活動をスタートしています。

#### 環境・安全中期方針 (2014年～2016年) 概要

1. エネルギー・廃棄物の最少化を目指した工場づくり  
エネルギー原単位を2013年比で年1%削減  
産業廃棄物の排出量原単位を2013年比で年3%削減
2. 労働災害ゼロ拠点づくりと拡大  
従業員の安全意識向上と、重大な危険源を撲滅する

2017年度から中期方針フェーズ3を策定しており、環境・安全においても「決め事遵守・スピード・挑戦」をキーワードに新たな中期方針を策定し、活動をスタートさせています。

#### 環境・安全中期方針 (2017年～2019年) 概要

1. エネルギー・廃棄物の最少化を目指した工場づくり  
エネルギーの部分供給に向けた環境整備  
エネルギーの見える化による諸施策の推進  
廃棄物減容と再資源化の促進
2. 労災ゼロ・火災ゼロの拠点造りと拡大  
労働災害に対するリスク評価と対策の推進  
火災ゼロ

### 担当役員からのごあいさつ

#### 持続可能な社会に貢献できる企業を目指して

当工場の敷地内において、過去の漏えいによる残留汚染物質が環境基準値を上回る値で検出されました。お客様を始め近隣住民、関係者の皆様には多大なるご心配をお掛けしましたことを、深くお詫び申し上げます。調査の結果、工場敷地外への流出はございませんでしたが、市への報告が遅れたことを大きな問題と受け止め、協定および環境関連法規の遵守徹底、ならびに汚染物質の浄化とモニタリングを継続してまいります。またモノづくりに関わるエネルギー低減と産業廃棄物の削減活動は、ともに目標を達成することができませんでした。2017年度では、2016年度の反省をもとにさらなるエネルギーの見える化、廃棄物の減容と再資源化を進め、ムダの顕在化と改善活動を展開してまいります。最後に本報告書に関心を寄せていただいたことに感謝申し上げますとともに、さらなる内容の充実、向上を図っていく所存でございますので、変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



常務執行役員  
緒方 一裕

## 環境保全目標

環境に関する会社方針に基づき生産拠点ごとに「環境管理活動計画」を策定し、目標達成に向けさまざまな活動に取り組みましたが、ベンチマークである2013年度と比較して、開発実験センターの稼働等による電力量増加や工場廃液の処理量増加などの影響もあり目標を達成できませんでした。2017年度ではさらなるエネルギー使用量の削減、生産性の向上やリサイクルを促進していきます。

## ● 2016年度の活動結果

○：目標達成 ×：目標未達

テーマ	目標値	2016年度活動結果	評価	掲載ページ
地球温暖化防止	CO <sub>2</sub> 排出量	90,823 t-CO <sub>2</sub> 以下	96,546 t-CO <sub>2</sub>	×
省エネルギー	エネルギー使用量 原単位	0.64 kL/百万円以下	0.71 kL/百万円	×
再資源化、 リサイクル率の向上	リサイクル率	90.6% 以上	90.1%	×
	ゼロエミッション	3.5% 以下	4.7%	×
廃棄物の減量	一般廃棄物	519 t以下	504 t	○
	一般廃棄物原単位	2.95 kg/百万円以下	2.09 kg/百万円	○
	金属屑	18,356 t以下	17,931 t	○
	金属屑原単位	243.08 kg/百万円以下	251.8 kg/百万円	×
	産業廃棄物	3,393 t以下	3,469 t	×
産業廃棄物原単位	28.36 kg/百万円以下	28.5 kg/百万円	×	

2017年度の  
主な取り組み概要

**温暖化防止**  
LEDやLVDなどの高効率照明  
置換、工場内のエア消費量  
低減、空調負荷低減活動など

**廃棄物低減**  
バイオ処理による塗料カス減  
容、廃処理装置の導入、汚泥  
やホワイトガソリンの有価物  
化など

(注) 原単位は限界利益に基づき算出しています。  
エネルギーは、電気、燃料を原油換算し、合計値をエネルギー使用量としています。  
CO<sub>2</sub>排出量およびエネルギー原単位の算出は弊社で定めた方法によります。

## 化学物質の管理

## ◆ 製品に対する環境規制への対応

生活圏の環境を守るために、REACH規則を始めとして、その他ELV指令やRoHS指令などさまざまな法令や規則等が制定されており、また徐々に厳しい規則内容に強化されています。強化されるREACH規則などに対応すべく、各製品における規制対象となる含有化学物質のデータベースを構築し、含有化学物質の調査、データの蓄積を進めています。このデータベースを活用することで、お客様から確認を依頼される使用禁止物質および使用制限物質の有無が迅速に確認できるとともに、REACH規則施行時から登録数が随時追加されていく高懸念物質の確認に対応できるようにしています。

引き続き、お客様と市場のニーズに適合した製品を提供できるよう活動を続けていきます。

## ◆ 化学物質へのリスクアセスメント

2015年度には、化学物質の健康障害に対するリスクアセスメントを国内の全拠点で実施しました。2016年度には、岐阜南工場、岐阜東工場にて、化学物質の爆発・火災に対するリスクアセスメントを実施しました。実施に当たり、化学物質を取り扱うすべての部署に、爆発・火

災現象の基礎となる、燃焼の三要素(可燃物、酸素、着火源)、引火点、発火点について説明しました。工場で行う化学物質の中には、目に見えないガス状のものや、引火点が常温以下のものがあるため、化学物質による爆発・火災の予防には、着火源の排除が重要であることを、リスクアセスメントを通して、取扱者に理解いただくことに努めています。

## ◆ PCB処理への対応

PCBを含有する変圧器などの電気機器は各事業所で厳重に保管しています。当社は専門の無害化处理会社と処理委託契約を結び、2012年度より処理を開始しました。

これまでにKYB-YS株式会社、および同铸造センター、カヤバシステムマシナリー株式会社三重工場に保管していた変圧器の処理を完了しました。引き続き各年度計画に基づき、処理を進めて参ります。



KSMから搬出されるPCB廃棄物

# 環境負荷の低減活動

## 生産拠点活動

### ◆ 還元中和処理の地上化と自動化

岐阜北工場では、廃水処理場において、めっき老化液再生装置およびめっき水洗処理装置からの廃液に含まれる、六価クロムの還元中和処理\*を実施しています。従来の還元中和処理は、地下ピットでの人の手によるバッチ処理

でした。今回、新還元中和処理装置への更新時に、装置を地上化し処理工程を自動化しました。地下汚染の防止を図るとともに、還元中和薬品の使用量を12%削減し、還元中和処理工数を65%削減しました。

\* 六価クロムの還元中和処理：  
六価クロムの三価クロム化を含む無害化処理



設置した処理装置

### ◆ 省エネ展示会（中部電力株式会社様共同企画）

2016年9月7日、岐阜南工場にて、現場の省エネ意識の改善を目的として、中部電力株式会社様共同企画「省エネ展示会」を開催しました。中部電力株式会社様では、電力供給で培ったエネルギー技術をもとに、中部電力株式会社管内の企業様に省エネ活動のアドバイス等を行う、ソリューションサービスを展開しています。この展示会は、そのサービスの一環で、中部電力株式会社様のソリューションラボ（通称：SOLAB）にあるデモ機（LED照明や水銀灯の電力比較、エアーデモ装置など）を岐



冒頭説明会の様子



省エネ展示会の様子



省エネ展示会の様子

阜南工場に搬入し、展示実演しました。また、「省エネ展示会」冒頭では、中部電力株式会社様による、省エネの意義、展示装置の説明、KYB岐阜南地区省エネ分科会による省エネ活動報告も行い、参加した約100名の従業員が省エネ活動の重要性を認識することができました。

### ◆ 1号棟屋根遮熱塗装によるCO<sub>2</sub>排出量削減

熊谷工場は、2016年7月に1号棟屋根に遮熱塗装を実施しました。埼玉県にはCO<sub>2</sub>の排出ガス取引制度があり、CO<sub>2</sub>削減は必須の課題です。また埼玉県熊谷市の夏場では猛暑日が過去5年間の平均で26日にもなり、工場内の作業環境に悪い影響を与えていました。遮熱塗装の施工により、空調負荷を減らし約7%/年のCO<sub>2</sub>排出量を削減、さらに平年より室内温度を約2℃低減することができました。

実際に従業員も室温が下がったことを体感しています。また熊谷工場は建屋の老朽化もあり各所で雨漏りが危惧されることから、遮熱塗装は雨漏り対策として効果が期待されます。



遮熱塗装施工後の屋根

### ◆ 工場エアおよび騒音低減対策 TAC(アメリカ)

作業環境改善活動として、工場内26カ所の騒音レベルの調査を行い、基準を上回る切削設備と材料バレル研磨機に騒音対策を行いました。切削設備へは低騒音エアブローノズルの設置、材料バレル研磨機へは防音シートの装着を行いました。この改善で、14~23%の騒音低減ができ、低騒音エアブローノズルの採用によってエア使用量がノズル1本当たり最大80%低減可能となりました。引き続きほかの加工エリアへの横展開を行い、作業環境の改善を行っていきます。



低騒音エアノズル



防音シート付き材料バレル研磨機

### ◆ 廃ホワイトガソリンの再利用

産業廃棄物である廃液排出量の削減が求められている中で、産業廃棄物として処理していた廃ホワイトガソリン月平均4.3トン有価として再資源化することを進めています。静脈産業株式会社様にてボイラー燃料用途として引き取りを行いサーマルリサイクルをすることで、産業廃棄物と処理費用の削減を実現しています。



ホワイトガソリン一次保管状況

### ◆ 空調用ガス焚き吸収式冷温水機への更新

岐阜北工場には、「A棟」「B棟」「C棟」と呼ぶ3つの事務棟があります。「A棟」では空調用として、1991年建設当初より、熱源が「重油焚き」の吸収式冷温水機を使用してきました。設備の老朽化に伴って、故障停止や空調効率の低下が目立っていました。設備更新を機会に、熱源を「重油焚き」から「ガス焚き」に変更し、省エネにつなげました。空調運転が安定したことで作業環境の改善にも役立っています。



岐阜北工場A棟 空調用ガス焚き吸収式冷温水機

### ◆ アモルファストランスの導入

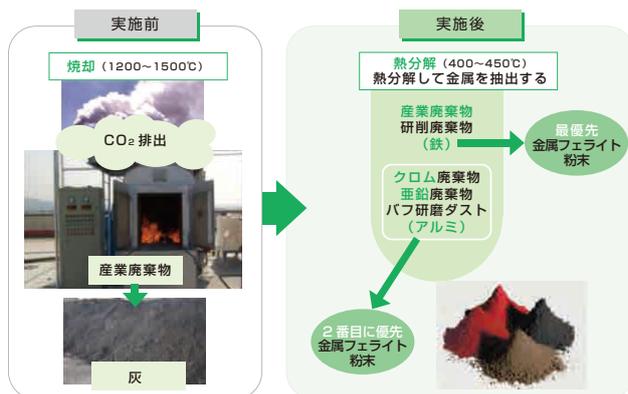
トランスは、24時間365日休みなく働き続け、その間電気を少しずつロスしています。ほんのわずかなロスでも、積み重なれば膨大なエネルギーロスになります。このロスは、電気を使っているときにトランスにかかる負荷によって発生する「負荷損失」と、負荷のあるなしに関係なく発生する「無負荷損失（待機電力）」に分けられます。岐阜北工場では、アモルファストランスを導入することにより、この「無負荷損失」を約40%削減しました。



アモルファストランス

### ◆ 産業廃棄物削減による環境改善 KMSB(マレーシア)

KMSBでは、研削、塗装、めっきから発生する廃棄物が産業廃棄物の大半を占めていました。焼却処理をしているため、大量のCO<sub>2</sub>を排出していました。環境改善を図るため、研削スラッジを脱水することにより廃棄の排出量を削減しました。さらに処理方法を焼却処理から熱分解処理に変更し、研削スラッジやバフくずなどの金属粉を再利用することができました。これにより、産業廃棄物処理に要するCO<sub>2</sub>排出が40%削減されました。今後も環境に優しい活動を積極的に進めていきます。



# お客様とともに

## お客様満足度向上の取り組み

### ◆ 品質基本方針

KYBでは「良い品質はわが社のいのち」の考えのもと、グループ内での品質情報共有化・情報伝達迅速化を積極的に進めるなど、品質向上のための諸活動により、お客様・社会にご満足いただける品質のモノづくりやサービスをご提供すべく努力しています。

### ◆ 品質保証体制

「製品品質」と「サービスの質」とともに、「仕事のプロセスの質」を重要視したISO9001規格に準拠した品質保証体制を構築し運用しています。また、日々その質の向上に努めています。

製品を生産する工法や工程の開発を含め、開発設計段階での品質は製品の市場品質を決定づけます。さらに、生産現場での作業手順など決めごとの完成度と運用の充実が、工程内不良を始めとしたモノづくりでの品質ロス削減につながります。

KYBでは「三段階評価」と呼ぶ製品・技術・工法などの開発・量産手法を運用し、製品の企画段階から量産出荷後の不具合改善や変更管理まで含めた製品ライフサイクル全体で高品質化を図る努力をしています。また、生産拠点では拠点長・工場長のリーダーシップのもとで品質向上諸施策が展開され、三段階評価の的確な運用を進めています。

## 三段階評価による製品・技術開発と品質安全宣言

ステップ	三段階の狙い	品質保証ステップ
先行・モデル開発 <b>DR0評価会</b>	可能性の証明 (開発品質の説明・評価)	開発品質
受注開発 <b>DR1評価会</b>	量産性の証明 (開発品質の説明・評価)	立上がり品質
量産開発・生産準備 <b>DR2評価会</b>	応用性の証明・シリーズ化 (立上がり品質の実証・評価)	量産品質

量産

### 品質安全宣言

本生産を開始する前に量産製品としての品質が確実に作り込んでいることを明らかにする



## KYBの目指す姿：品質未然防止のサイクル



### ◆ 品質改新キックオフ

お客様の立場に立ったモノづくりを進めるため、品質改新活動を開始しました。これに先立ち、KYBグループの工場長・拠点長が参加し、グローバル総不良損失目標を必達するための、キックオフを行いました。従来の取り組み方では品質目標の必達は困難と判断しました。そこで目標未達分挽回のため全員参加を推進し、強いリーダーシップのもと集中的に改善工数を重ねることを確認しました。



小宮副社長による趣旨説明

### ◆ 改善専任チームの活動

海外拠点の品質不良ワースト4拠点を取り上げ、品質不良低減改善支援および拠点の自立化へ向けた改善手法の教育を実施しています。基本はお客様へ不良を流出させないことと、品質チェックの強化（検査道具立て、検査方法の指導）を行うことです。拠点自立化へ向けた教育の一環として、真因の追究と真因に対する恒久対策、効果の確認、さらには、類似工程への対策展開を生産ラインにて指導しています。また、改善スキルの評価を実施し、各拠点の改善レベル確認を実施しています。



KACでの勉強会風景

## ◆ サプライヤー表彰一覧表

拠点名	名称	内容	お客様
KMS	グローバル 貢献賞	インドにおける 供給に貢献	ヤマハ発動機 株式会社
KYB	優秀 サプライヤー賞	拡販および 原価低減を評価	日立建機 株式会社
KMSB	サプライヤー 表彰	品質・納期で 満点を獲得	いすゞ自動車 株式会社
KIMZ	ベスト パフォーマンス賞	品質・納期で ノートラブル達成	ジヤトコ広州社
KYB	グローバル 開発賞	高効率ペーンポンプ 開発に貢献	ジヤトコ 株式会社
	グローバル 品質賞	直近12ヶ月 ゼロクレーム達成	
KYB 金山	サプライヤー 品質賞	品質・納期で 目標達成	ゼネラル モーターズ
KYB	サプライヤー 認定	品質・コスト・納期・ 開発で優秀性評価	三菱ふそう トラック・バス株式会社
KMSB	環境 コンベンション	CO <sub>2</sub> ・産業廃棄物 排出量抑制	UMW トヨタ自動車株式会社
KMSB	優秀 サプライヤー賞	品質、納期、 価格協力に貢献	ホンリョン ヤマハ モーター株式会社

## ◆ 3年連続でサプライヤー表彰受賞 KST(タイ)

2013～2015年度の3年間にわたり、品質および納入スコアにおいて満点を継続したことに対し、いすゞ自動車株式会社様より名誉賞をいただきました。KSTはいすゞ自動車株式会社様にSUVやピックアップトラック向けのパワーステアリング用ポンプを納入しています。5Sや安全活動をベースに作業環境を改善し、朝一会<sup>\*</sup>やコンタミ低減などの部門横断的なチーム活動を通して、工程内不良の低減や作業者のスキルアップをコツコツと継続してきた結果が今回の受賞につながりました。



表彰式の模様

<sup>\*</sup>朝一会：始業時、生産、品質、安全などに関し、関係者が集まり、昨日までの状況を報告し、確認し合うための簡単な打合せ。

## ◆ お客様への情報発信

展示会はお客様から直接ご意見をうかがえる貴重なコミュニケーションの場であると考えています。今後も各国の展示会に参加していきます。

### 出展した展示会（一部）

展示会	主な出展
第41回 2016食肉産業展	水圧駆動式食肉加工機械用 ピストンポンプ・モータほか
人とくるまのテクノロジー展 2016横浜	ドライブレコーダ、移動体向け 通信端末ほか
InnoTrans 2016	アクチュエータ、 セミアクティブ装置など
FOOMA JAPAN2016 (2016国際食品工業展)	水圧駆動式食肉加工機械用 ピストンポンプ・モータほか
オートメカニカモスクワ	ショックアブソーバ
中国オートサロン	ショックアブソーバ
オートメカニカフランクフルト 2016	ショックアブソーバ
2016国際航空宇宙展	ホイール/ブレーキ、電動ブレーキほか
中国国際農業機械展	HTS、各種パワーステアリング、 油圧モータほか
マニラオートサロン	ショックアブソーバ
bauma China2016	小型ショベル用油圧製品など
Automechanika Shanghai 2016	ショックアブソーバ
bauma CONEXPO INDIA 2016	ミキサ車、コンクリートポンプなど
東京オートサロン2017	ショックアブソーバ
第8回 振動技術展	免震・制振用オイルダンパなど

## ◆ 個人株主様向け工場見学会開催

2017年3月に個人株主様向け工場見学会を相模工場にて開催致しました。株主様には、はじめに当社の紹介を行い、その後相模工場の概要をご説明致しました。次に参加株主の方が2組に分かれ、工場とKYB史料館の両方をご見学いただきました。工場見学では、実際に生産している塗装工程をご覧いただき、また史料館では当社の歴史と製品などをご紹介しました。終了後には株主様との対話を通じて貴重なご意見を多数いただきました。今後も継続して見学会を開催し当社へのご理解を深めていただくよう努めていきます。



生産工程の説明風景

# お取引先様とともに

## パートナーシップの構築

### ◆ 調達基本方針

KYBは、企業のCSRを果たし、社会に信頼される企業であり続けるよう活動しています。KYBがモノづくりを通じて継続的な事業発展を果たし、豊かな社会づくりに貢献していくために、お取引先様は商品づくりの大切なパートナーです。

以下にKYBの調達の基本的な考え方をご紹介します。詳しくはwebサイトをご覧ください。

<http://www.kyb.co.jp/company/csr.html>

#### ● 調達の基本的な考え方

- |                       |                |
|-----------------------|----------------|
| ① お取引先様と共存共栄を目指した調達活動 | ⑥ 納期対応         |
| ② 法令の遵守               | ⑦ 自然環境の保護      |
| ③ 品質第一                | ⑧ グローバル調達体制の構築 |
| ④ 安全衛生・人権・労働          | ⑨ 危機管理         |
| ⑤ 継続的原価低減活動           | ⑩ 機密情報管理       |
|                       | ⑪ 腐敗防止         |

### ◆ 2016年度調達方針説明会

KYBとお取引先様との連携強化のため、2016年度も「KYB調達方針説明会」（品川インターシティホール：東京都港区）を開催致しました。当日は、前年度を4社上回る214社のお取引先様をお迎えし、会社方針、調達方針および品質方針を説明致しました。またQCDDにおいて効果を上げられた優良なお取引先様に対する表彰を行った後、お取引先様を囲みでの交流懇親会も併せて開催しました。



### ◆ 紛争鉱物（コンフリクトミネラル）への対応

アフリカのコンゴ民主共和国および周辺国の紛争地域において、同地区から産出される鉱物4種（タンタル・

タングステン・すず・金）を紛争鉱物と定義し、採掘される鉱物資源を購入・使用することで武装勢力の資金源となり、紛争地域での人権侵害等に寄与していないこと等を確認することが求められています。

KYBグループ企業は、CSRの視点や米国金融規制改革法（ドット・フランク法）の趣旨に基づいて会社としてのガイドラインを作成しており、お客様やお取引先様と連携し、不正に採掘された紛争鉱物の不使用に向けた取り組みを行っています。

### ◆ BCP（事業継続計画）活動状況調査について

今後、発生が懸念されている三連動地震（東海・東南海・南海）に備え、調達方針説明会においてBCP対応に関する説明をしました。また、お取引先様のBCP活動状況を把握することは重要であるとの考えから、お取引先様に対し、全7分類（1.想定リスク対策、2.身の安全確保・緊急避難、3.災害対策本部、4.安否確認、5.物的被害確認、6.帰宅指示・帰宅困難者、7.復旧対策本部）100項目のアンケート調査を実施し、自己評価をしていただきました。411社からの報告をいただき、取り組み状況の把握ができました。自社の取り組み状況を把握していただくとともに、実施できていない項目について、今後、計画的に活動していただくようお願いしました。

### ◆ 取引先QCサークル大会開催による改善活動活性化

お取引先様の改善活動活性化を目的として、取引先QCサークル大会を毎年1回開催しています。2016年で46回目の大会となりました。今回は、132社200名のお取引先様にお集まりいただき、応募されました33社の中から優良な改善事例の6社より改善事例発表を行いました。最優秀賞（金賞）には3年連続で碧海工機株式会社様（<sup>へきかい</sup>）が選ばれました。

## VOICE

### 取引先QCサークル大会 金賞を受けて ～碧海工機株式会社様～

今回の発表サークルは、鑄造職場の安定した生産を目指し生産性向上のテーマに取り組みました。よかった点は、現場からの改善要望に応えるために、忙しい中でもメンバー全員が協力して現状を分析、改善案を出し合えたことです。効果の確認では、手作業時間を大幅に短縮したことにより残業ゼロを達成、また作業者の安全を確保することも同時にできたことで達成感が得られました。メンバーは、一度は無理と思ったことも皆で知恵を出し合えば解決できるということが体験でき、日々の改善意欲が高まりました。今後も金賞を励みに職場全員がスピーディーで活気ある活動を行い、お客様満足度をより向上していきます。



左:岡田 晋様/右:青山 怜平様

# 地域社会とともに

## 社会支援活動

### ◆ 地元の小学校を支援 KMSI(インド)

KMSIと近隣企業各社が共同で地元小学校への支援を行いました。

蛍光灯や壁掛け時計、運動用具等の実用品をプレゼントするとともに、記念植樹や医療診断のサポートを行いました。子供たちからはこの日のために練習してきた歌や踊りを披露してもらい、小学校から感謝の盾をいただきました。地元の子供たちが学校で平和に学べるよう貢献することは、企業にとって大切な社会的責任です。今後も地域社会への貢献を続けていきます。



式典の様子



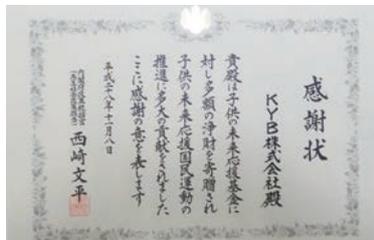
感謝の踊り



医療診断

### ◆ 明るい未来のために

KYBは社会貢献活動の一環として、毎年さまざまな団体の活動に協力しています。2016年度は「日本ユニセフ協会」や「経団連自然保護協議会」、「子供の未来応援基金」などへの寄付を実施しました。また、日本国内の被災地支援として、熊本地震復興への寄付と今回で2度目となる東日本大震災の復興支援の即売会を行いました。今後も明るい未来のために支援の輪を広げていけるよう、活動していきます。



内閣府からの感謝状



東日本大震災の復興支援即売会の様子

### ◆ 近隣の総合医療機関との合同総合防災訓練実施

岐阜南工場では、近隣にある独立行政法人 地域医療機能推進機構 可児とうのう病院様と、『合同総合防災訓練』を、毎年実施しています。この訓練は、大規模地震発生を想定し、職員および地域住民、企業が連携して、緊急時の対応を行うことを目的として可児とうのう病院様が実施しています。

2016年も、岐阜南工場本部消防隊が参加し、被災状況報告訓練等の見学、イーバックチェア（階段けが人搬送避難車）による避難訓練、岐阜南工場本部消防隊による放水訓練を実施し、防災意識の向上を図り、大規模地震発生時の連携体制を確認しました。



イーバックチェア  
(階段けが人搬送避難車)による避難訓練



放水訓練

### ◆ 踏切事故防止キャンペーン

岐阜南工場は、名古屋鉄道広見線の可児川駅に隣接し、正門前に踏切があります。従業員の多くは、この踏切を渡り通勤しています。また、この踏切は、地元の可児市立土田小学校児童の通学路にもなっています。

小学校の入学式・始業式のある4月7日、岐阜南工場の早朝あいさつ運動として、名古屋鉄道株式会社様と可児警察署様にご協力いただき、「踏切事故をなくそう」を掲げ、「踏切事故防止キャンペーン」を実施しました。KYB従業員のみならず、児童、近隣住民の方々の安全確保に貢献しています。



名古屋鉄道株式会社社員様と  
可児警察署員様による啓蒙



登校する児童の、踏切横断時の  
注意啓蒙とあいさつ運動

## 社会支援活動

### ◆◆ 相模原の環境をよくする会

「相模原の環境をよくする会」は、公害の未然防止と豊かな自然を守り快適な環境をつくるため、毎年四季を通じて環境の変化を監視しています。当社は会員として自然保護活動に参加しています。2016年度は「河川生物調査」として市内の河川状況や生物種などの調査に参加しました。また「絶滅危惧種カワラノギクと河原の植物観察会」に参加し、河原の維持に貢献しています。



河川生物調査



絶滅危惧種カワラノギクと河原の植物観察会

### ◆◆ 産業フェア in 可児2016に出展

2016年10月に、「産業フェア in 可児2016」が開催されました。このフェアは、可児商工会議所会員企業による総合展示会で、地域の活性化に寄与することを目的としています。10回目の今回は過去最高の17,220名の人出で賑わいました。当社は、自動車・二輪車・油圧ショベル等に使用されている製品を展示しました。可児市内に立地する企業として、今後も地域の方々との交流を大切にしていきたいと考えています。



ブースの様子I



ブースの様子II



ブースの様子III

### ◆◆ 世界環境デーで苗木配り KCPL(インド)

毎年6月5日の世界環境デーに、KCPLは独自にPlant-athonを開催しています。このイベントを通して、私たちは環境と自然を守る必要性についての意識を高めています。この日 KCPLでは、バドグラ市の主要な場所に苗木の配布場所を設置し、市民に無料で配布しました。併せて苗木の育て方に関する情報も提供しています。さらには植林活動も行っており、2016年にはニーム、鳳凰木など10,000本以上の苗木を配りました。

### ◆◆ リサイクル堆肥の花壇等への活用

岐阜南工場と岐阜東工場の食堂から排出される残飯は、生ごみ処理機により減容され、その残渣は工場内で刈られた草などと混ぜられ、良質な堆肥として、岐阜東工場内でリサイクルされています。

この「リサイクル堆肥」は、例えば、岐阜東工場の東側市道沿いの200mにも及ぶ花壇に活用され、きれいな花を咲かせています。

また、「リサイクル堆肥」を活用することで、化学肥料の使用抑制と一般廃棄物排出量年間約4トン削減を実現しています。



工場前の花壇

## VOICE

### リサイクル堆肥で育った柿

「リサイクル堆肥」のもう一つの活用例をご紹介します。岐阜県発祥のとても美味しい富有柿をご存知でしょうか？岐阜東工場の緑地帯では、「リサイクル堆肥」を活用し、富有柿を育てています。「桃栗三年 柿八年」という諺に従わず、工場竣工時に苗を植えてから4年目、枝もたわわに富有柿が実りました。お店に並べても見劣りしないほどの大きさ・色艶で、甘みも抜群です。KYBへご来訪いただいたお客様や近隣の方へ美味しい富有柿をお配りできる日を楽しみにしています。



総務課(岐阜東工場駐在)  
酒井 美武

## ◆◆ パラアルペンスキーナショナルチームを 継続支援

KYBグループは、特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟パラアルペンスキーチームのスポンサーおよびサプライヤーとして、日本チームのチェアスキー用ショックアブソーバの製品開発と技術サポートを行っています。2016年12月にスイスで開催されたワールドカップ第6戦で、KYB所属の鈴木猛史選手が優勝し、他の選手たちも好成績を残しています。KYBグループは、2018年の平昌パラリンピックでの金メダル獲得に向けて、選手と一体となり、製品の改良に努めます。また、今後も社会貢献の一環として、スポーツ振興に寄与していきます。



競技中の鈴木選手



ワールドカップ第6戦で優勝

## ◆◆ メキシコサッカー協賛

KYBはメキシコサッカー1部リーグ所属の「Club Leon」とスポンサー契約を締結しました。リーグ前半戦は苦戦したものの、後半戦では負けなしの快進撃を繰り広げました。決勝トーナメントへ進出し、ベスト4に入ることができました。また、リーグ途中ではKYB主催のPRイベントも開催し、メキシコ国内でのKYBの認知度向上につなげることができました。今後も地元レオンで活躍する「Club Leon」を応援していきます。



記者会見の様子



開幕戦の様子

## ◆◆ KYB陸上部によるランニング教室

可児市立広見小学校の5年生に、今年で13年目となるランニング教室を行い、たくさんの児童の皆さんに参加してもらいました。

まず、部員がランニングの見本を示し、頭、視線の位置、腕の振り方、呼吸など、ランニングの基本を指導しました。これにより、以前より楽に速く走ることができるようになり、ランニングの楽しさを実感してもらいました。また、小学校の先生方にも好評でした。

私たち部員も、指導する貴重な体験ができ、やり甲斐を感じています。



坂道の走り方練習



ランニングの基礎練習

## ◆◆ 献血サポーターへの参加

熊谷工場は、「献血サポーター」\*に登録しており、毎年2回工場内で献血を実施しています。献血当日は、献血協力が積極的に会場に集まり賑わっています。血液センターの方に話をうかがうと、年々協力が減少傾向にある中、熊谷工場では毎回希望血液量に達しています。献血に協力している従業員からは「人助けに少しでも貢献したい」「人のために自分にできることをしたい」という声が多く聞かれます。また、2016年度は献血活動継続30年で日本赤十字社より感謝状をいただきました。今後も輸血を必要としている方のために献血に協力して少しでも力になれるよう活動していきます。

\*献血サポーター：  
医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血に積極的に協力している企業・団体のことをいいます。



いただいた感謝状

# 従業員とともに

## 人財の活用と職場環境づくり

### ◆ 基本的な考え方

多様な人財を活かしてグループ力の最大化を図るため、「グローバル人財育成・グローバルプラットフォームの構築・多様性（ダイバーシティ）の推進」について重点的に取り組んでいます。

具体的には「プロフェッショナル人財の育成・グループ全体での価値観の共有・モノづくり人財の育成強化・ワークライフバランスの推進・こころと体の健康管理」などのテーマ検討を進め、働きやすい職場環境づくりを進めています。

### ◆ 救命講習会の開催

けが人、急病者発生時には、その場に居合わせた人が速やかに応急手当を行えば、救命率は向上します。岐阜北、南、東の各工場では「いざ」というときにひとりでも多くの命が救えるように「救命講習会」を開催しています。訓練用的人形やAEDトレーナーを用いて、胸部圧迫、心肺蘇生法やAEDを実際に使用した訓練を行っています。また各工場の救急時の対応ルールや救急車の誘導方法、AED設置場所なども併せて確認しています。現在、岐阜地区に計23台のAEDが設置してあり、必要時には誰もが使用できます。

今後も多くの方が自信を持って心肺蘇生やAEDの使用ができるように講習会を継続していきます。



救命救急講習（南工場）

### ◆ 住みごっこ一番・可児に向けた企業との連携協定

可児市は、「働き方の見直し」や「ワークライフバランスの実現」に取り組む企業を登録し、模範となる企業と協定を結び、市内外に広くPRすることで市民と企業と街とともに発展させる「可児わくわくWorkプロジェクト」に取り組んでいます。

当社は、ワークライフバランスの実現に積極的に取り組んでいる企業として、可児市との間で「住みごっこ一番・可児に向けた企業との連携協定」を締結しました。



協定式・  
岐阜北工場長

## 人財育成と技術力向上

### ◆ グローバル技術者研修

海外生産拠点のモノづくり力向上を目指して2006年からグローバル技術者研修を実施しています。本研修は、現地・現物で「対話方式の講義」「体感実習」「社内外の見学」を柱に半月または1カ月間行われます。基礎から応用までの技術を習得したのち、自拠点の改善案を作成し、帰国後はその改善案を実施してもらいます。

2016年度は計測と材料検査コース、センタレス研削コースおよびKPSコースを実施し、11カ国14拠点から41名が受講しました。

今後も本研修を継続実施し、海外生産拠点のモノづくり力強化を推進します。



研削コースの工場見学の様子



オフの日の岐阜城見学

### ◆ KYBグローバル生産・品質会議

2016年度のグローバル生産・品質会議は、11月9日～11日の計3日間で開催されました。海外の19拠点から42名が参加し、事例発表と熱心な質疑応答が行われました。

初日のKYBグローバル改善発表会では、13拠点から14テーマの生産・品質に関わる改善テーマが発表され、KSTが「ゴールドファインディング活動（コンタミ低減活動）」の発表により金賞を受賞しました。

各生産拠点における『安全・環境・品質・生産』に関する情報と課題の共有化を図り、それぞれの機能レベルを向上させ、今後の発展に寄与していきます。



参加者集合写真（於 岐阜北工場）

## ◆◆ QCサークル活動（小集団改善活動） 優良企業・事業所表彰

岐阜地区は、2016年度QCサークル活動(小集団改善活動)優良企業・事業所の表彰をいただきました。この賞は、長年にわたり地域の活性化に大きく貢献している企業・事業所へ授与されています。今回、全国9支部11企業のひとつとして選出されました。当日は岐阜地区渉外担当役員である岐阜北工場の畠山工場長が代表となり、日科技連より表彰状と盾を授与されました。

## ◆◆ 技能五輪全国大会へ出場

技能五輪は、23歳までの若者を対象に技能日本一を競う競技大会です。54回目の今大会は41職種、1,318名の選手が出場しました。



課題のサンプル品

KYBが出場した旋盤職種は、競技で一番人気が高いため2次予選が設けられました。加工する5つの部品の公差はすべて±0.02mmにするという、大変厳しい精度が求められます。



競技中の石原選手

人育成センターでは、若手技能者育成と自社の加工レベルアップのために毎年2名がエントリーしており、2016年度も加木屋良真と石原公貴が本戦へ出場しました。



競技中の加木屋選手

また、2017年度も継続して出場できるように現在も2名が訓練に励んでいます。

## ◆◆ スラッジ定期清掃作業の廃止

長い間課題となっていた研削工程のスラッジ清掃作業を改善しました。

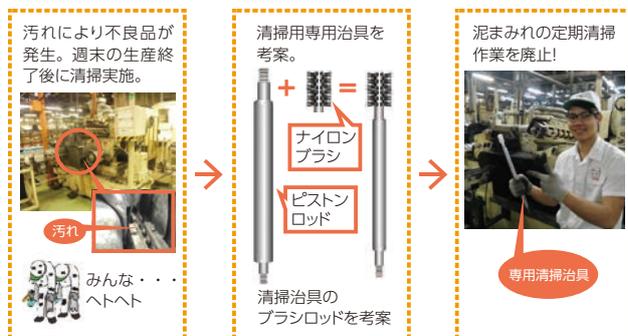
ショックアブソーバのピストンロッドは、摺動面（外径）を砥石で鏡面仕上げ加工を行います。加工で発生したスラッジが受け治具に堆積し、加工キズとなり不良品が発生する為、週末生産終了後、泥まみれになってのスラッジ清掃作業が待っていました。時間も体力も必要で大変な作業でした。

試行錯誤を繰り返した結果、専用清掃治具（ブラシ取付品）を考案する事ができました。加工中に堆積したスラッジを除去できる優れものです。これでスラッジの定期清掃作業を廃止することができました。

『最後まで諦めない』をスローガンに職場全員で知恵を出し合い解決できた改善事例です。

岐阜北工場サスペンション製造部  
岩井 研弥

### スラッジ定期清掃作業の廃止



## VOICE

### 出場者の感想

私は、技能五輪を通して仕事に自分のやり方を持つということ学びました。これは、人の優劣ではなく、自分にできる最大限の仕事をするということです。これからは自分の個性を生かした仕事で会社に貢献します。



人育成センター  
かぎや  
加木屋 良真

今回初めて技能五輪に挑戦し、二次予選を通過して全国大会に出場できたことは次回につながるとも貴重な経験になりました。本選の結果はあまり満足はいく結果ではなかったので、2017年度に向けて練習を積み来年の大会では入賞できるようにがんばります。



人育成センター  
石原 公貴

## 従業員コミュニケーション

### ◆ 第15回 KYB 全社スポーツ・文化交流大会

15回目となるスポーツ・文化交流大会が、KSMの工場がある三重県で開催されました。競技数全11種目、合計992名が一堂に会し、すべての競技において白熱した展開となり大変盛り上がりしました。海外勢が主役となったフットサルは、ベトナムを抑えてスペインが優勝。散策は、タカコの工場がある滋賀県甲賀市で行われ、信楽焼体験など地元ならではの競技も楽しく行われました。スポーツ・文化の競技を通じて、KYBグループの従業員が交流を深め仲間との絆を強めることができる、年に一度開催される貴重なイベントとなっています。



競技のようす(フットサル試合後)

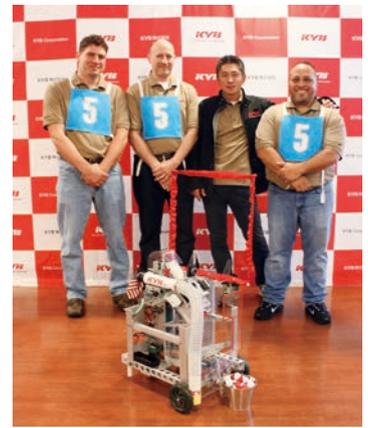


開会式のようす(鏡開き)

- 開催日：2016年9月24日(土)～9月25日(日)
- 開催地：三重県・滋賀県(KSM、タカコ)
- 競技：ソフトボール、ビーチバレーボール、フットサル、ボウリング、硬式テニス、海釣り、卓球、ゴルフ、ドッジボール、散策、百人一首

### ◆ 第9回 KYBロボットコンテスト開催

2016年11月12日に第9回「KYBロボットコンテスト」が、岐阜北工場にて開催されました。今回の競技課題は玉入れで、ロボットはスタート後にボールの入ったバケツを取り、相手コートの目標にボールを入れて、その合計点を競います。2016年は国内(グループ会社含む)17チーム、海外7チームの計24チームが参加し、観客を含めて参加者が約600名となり、今年も大盛況となりました。優勝はKAC(アメリカ)で3年ぶりに王座を奪還しました。また、上位3チーム、ならびに社長特別賞、技術賞、アイデア賞、最多得点賞のすべてを海外チームが独占しました。2017年は相模工場にて開催予定です。



優勝チームのKACのメンバー



競技参加者とチームメンバー

## VOICE

### ロボットコンテストで3年ぶりに王座奪還

我々ロボコンチームはシンプルなコンセプトにより勝利への戦略を立て自作のコースで練習しました。インドネシアチームとの決勝戦は最後まで白熱した戦いでした。2016年は4チームが同時に競う形式となっており、観客もプレーヤーもとても盛り上がりました。我々は5年間で3度も優勝できました。2017年度のコンテストでは是非ともタイトルの防衛をしたいと思います。

KAC チームリーダー  
Jon Burris  
(ジョン パリス)



# 安全で働きやすい職場づくり

## 労働安全衛生

### ◆◆ 労働災害ゼロを目指して

2012年度から「安全はすべてに優先」をスローガンに掲げ、全社一体となって活動を行ってきました。安全担当役員を委員長とした全社の「環境・安全委員会」を中心に、各事業所の「安全衛生委員会」が中核となって具体的な活動を行っています。2016年度は前年度国内で実施してきた諸対策「リスクアセスメント」「止める・呼ぶ・待つ」「繰り返し安全教育」「安全の門」などを海外生産拠点工場へも展開しました。その結果2016年度においては2015年度と比較し、労災件数を約12%低減できました。まだまだ目標とするゼロには至っていません。今後も労災ゼロに向け継続して活動を進めていきます。



ベトナム工場(KMV)に設置された安全の門 KMVにおける繰り返し安全教育

### ◆◆ 繰り返し安全教育の実施

これまで安全教育への取り組みは「雇入れ時の安全教育」「安全体感教育」などを各工場で実施してきました。しかしこれらは各工場が独自で実施してきたため、内容や方法に一貫性がないという問題がありました。そこで全社の安全実務者を中心に安全の基本的な考え方やリスクアセスメントなどの管理手法等を集約して「KYB安全の基本」テキストを作成しました。このテキストをグループ全体で採用することで、同じレベルで且つ計画的な教育を開始することが出来ました。受講対象者は、労働災害が多く発生している経験年数の従業員を対象としています。今後はさらに受講対象者の範囲を拡大して実施していきます。



「KYB安全の基本」テキスト表紙



講習会風景

### ◆◆ アジア安全衛生SAKURAプロジェクトに参加 KST(タイ)

2016年11月7日～11日の5日間、中央労働災害防止協会主催のアジア安全衛生SAKURAプロジェクトに参加しました。KYT、リスクアセスメント、OSHMSについて専門家の方々に非常にわかりやすく教えていただき、ワークショップや現場見学も盛り込まれており、講義内容を深く理解することができました。また、2月15日には専門家の方に工場を見ていただき、具体的なアドバイスをいただきました。今回の研修を通して、今まで取り組んできた活動のよい点と改善が必要な点を明らかにすることができましたので、活動のレベルアップを図るとともに、活動を工場全体に広げ、よりよい社会貢献へつなげていきたいと思っております。



各企業からの参加者 (KST/バットさんは2列目中央)

受講風景

### ◆◆ 労働災害件数・度数率・強度率



# 経営マネジメント



## コーポレートガバナンス

### ◆ 基本的な考え方

当社は、持続的な成長と企業価値向上の実現を通してステークホルダーの期待に応えるとともに、社会に貢献するという企業の社会的責任を果たすため、取締役会を中心に迅速かつ効率的な経営体制の構築ならびに公正性かつ透明性の高い経営監督機能の確立を追求し、経営理念および以下の基本方針に基づき、コーポレートガバナンスの強化および充実に取り組むことを基本的な考え方としています。

### ◆ 基本方針

1. 当社は、株主の権利を尊重し、平等性を確保する。
2. 当社は、株主を含むステークホルダーの利益を考慮し、それらステークホルダーとの適切な協働に努める。
3. 当社は、法令に基づく開示はもとより、ステークホルダーにとって重要または有用な情報についても主体的に開示する。
4. 当社の取締役会は、株主受託者責任および説明責任を認識し、持続的かつ安定的な成長および企業価値の向上ならびに収益力および資本効率の改善のために、その役割および責務を適切に果たす。
5. 当社は、株主との建設的な対話を促進し、当社の経営方針などに対する理解を得るとともに、当社への意見を経営の改善に繋げるなど適切な対応に努める。

### ◆ コーポレートガバナンス体制の概要

当社は会社法上の機関設計として、監査役会設置会社を採用しています。

#### 取締役会

取締役会は、社外取締役2名を含む7名で構成し、法令、定款および取締役会規則、その他社内規程等に従い、経営に係る重要事項の意思決定や取締役の職務執行の監督をしており、原則として毎月1回開催致します。

#### 執行役員会

執行役員会は、取締役会へ上程する案件の事前審議機関として、全社的な視点から経営に係る重要事項を審議します。

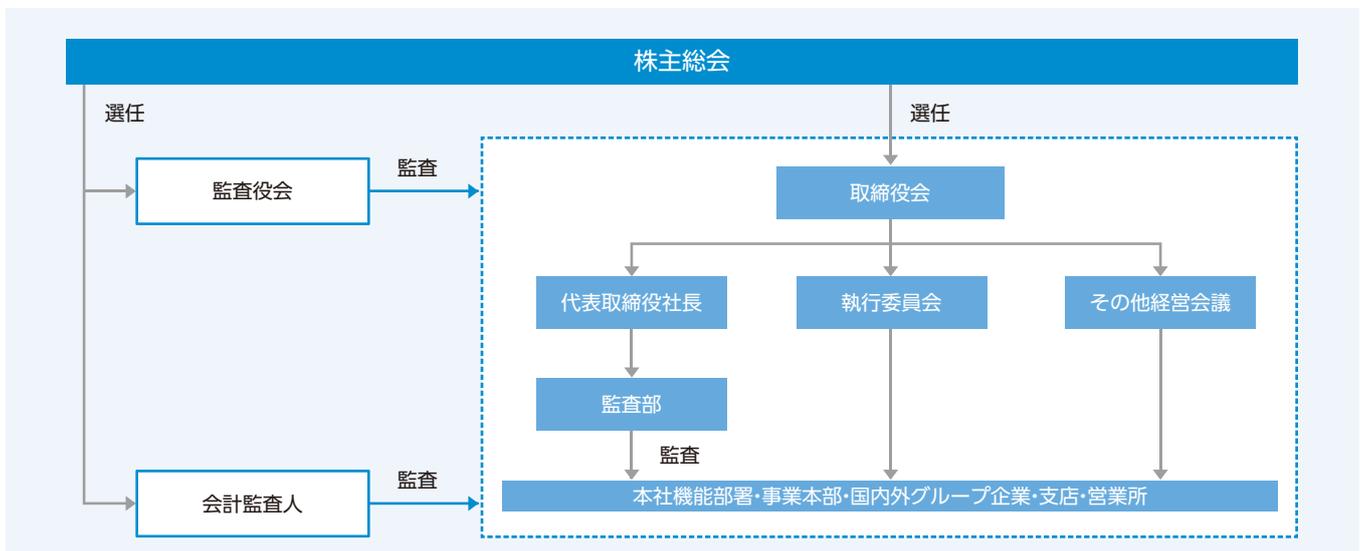
#### その他経営会議

国内および海外関係会社の経営執行状況を定期的に監督する「国内関係会社経営会議」「グローバル・ストラテジー・コミッティー」、社長が自ら工場現場に出向き、モノづくりの重要課題をフォローする「社長報告会」などの会議体を設置し、グループ経営監視体制の強化を図っています。

#### 監査役会

監査役会は、常勤監査役4名で構成し、うち2名は社外監査役です。社外監査役による監査により、実効性のある経営監視が期待でき、有効なガバナンス体制がとられているものと判断しています。尚、社外監査役のうち1名を独立役員として登録しています。

## コーポレートガバナンス体制



## 内部統制

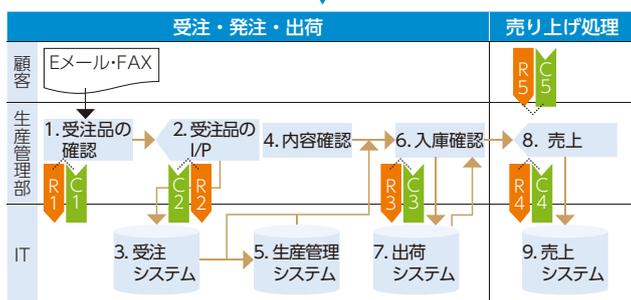
コーポレートガバナンスを有効に機能させる前提として、財務報告の信頼性を確保し、業務の有効性を高め、法令等の遵守を促すために、内部統制システムの整備および内部統制機能の強化に注力することが必要不可欠であると考えています。具体的には、会社法に基づき内部統制システムの基本方針を取締役会で決議し、リスク管理体制整備、グループ管理体制整備、社内コンプライアンス体制整備等の諸施策を推進しています。また、金融商品取引法に基づき「財務報告に係る内部統制」の整備・評価を法の定める手続きで行い、財務報告の信頼性を確保するとともに、適正な情報開示を実践しています。

## ◆ 「見える化」による自己管理

2008年4月からの金融商品取引法による内部統制報告制度の適用により、財務諸表に影響を及ぼす業務について図式化を推進し評価を行っています。業務の手続きやルールは規程類で定めていますが、さらに業務の流れを図式化することにより「見える化」し、担当者にしかわからなかった業務を担当者以外でもわかるようにするとともに、どこに業務上のリスクが存在しているかを明らかにし、そのリスクを低減するためのチェック機能が有効に働いているかを自己管理する仕組みを取り入れています。

## 業務内容の図式化(例)

業務	
No. 名称	詳細内容
1 受注品の確認	担当者が品番、納期、数量に間違いや不適切がないか確認
2 受注品インプット	受注品の確認・メール内容を見てインプットする
3 受注システム	受注システムでの処理
4 内容確認	担当者が基準日程の中身を確認
5 生産管理システム	生産管理システムでの処理
6 入庫確認	仕入先から部品が納品された後、入庫内容を確認する
7 出荷システム	出荷データを受け取る
8 売上	担当者が、画面にアクセスし、売り上げ計上の処理を実施
9 売上システム	売上実績の集計



## コンプライアンス

「コンプライアンス」は「社会規範である法律・命令・規則の遵守」にとどまらず、企業活動に伴う「定款・社内規程・契約等の遵守」、さらに健全な企業活動を進めるための「企業倫理の遵守」であると考えています。

1. 役員と従業員が企業活動を遂行する上で遵守しなければならないルールとして「企業行動指針」を整備し、法令遵守と企業倫理の確立に努めています。
2. 役員をはじめ、階層別研修・分野別研修等を通じて、コンプライアンス教育を実施しています。
3. 全グループ企業を対象とする社内通報制度（即報・目安箱）を整備しています。さらに、公益通報者保護法の施行を受け、専用の通報・相談窓口を設置しています。
4. 個人情報保護方針を定め、社内規程の整備を行い、社内委員会の設置をしています。社外向けに、個人情報問い合わせ窓口を設けています。
5. 企業の反社会的勢力排除に関する取り組みが強く求められている中、KYBグループでは、お取引先様が反社会的勢力との関係を有している等判明した場合に、契約を解除し得るように、反社会的勢力との関係を有していないことを書面で確認する等の取り組みを行っています。

## TOPICS

eラーニングによる  
コンプライアンス教育

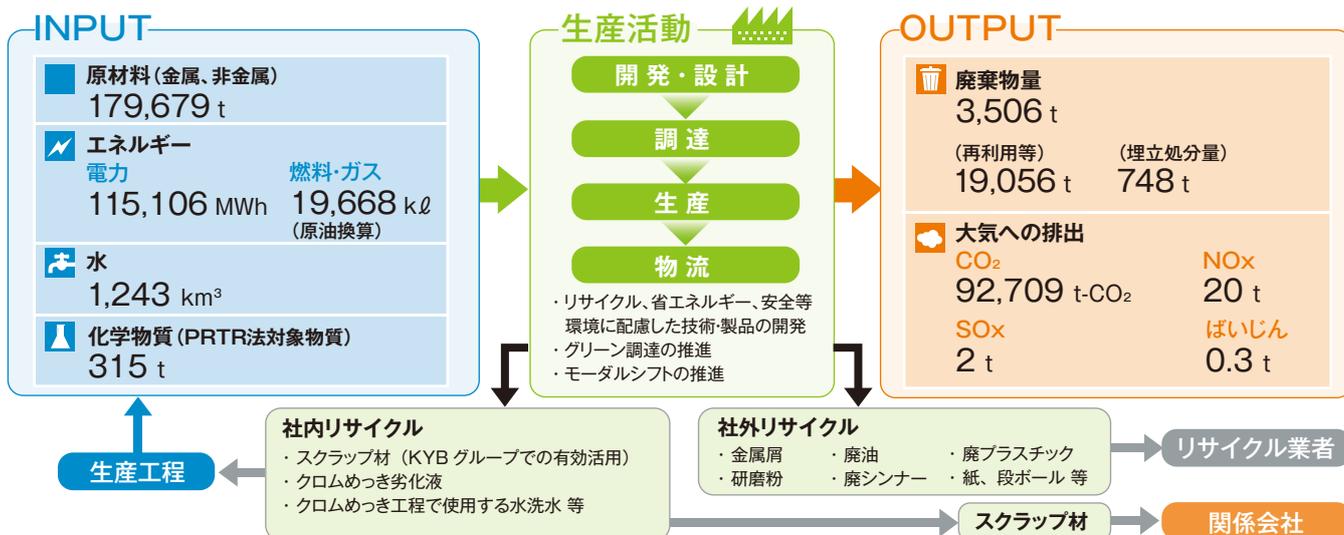
グローバル化に伴い、国内外で働くKYBグループの従業員を対象に、独占禁止法教育（eラーニング）を実施しています。9カ国語でグローバル展開し、日本、米国、カナダ、EU、中国など各国の独占禁止法について基本的な理解を深め、独占禁止法遵守の重要性を再認識してもらうことを目的としています。

# 環境データ編

## 事業負荷に伴う環境への影響

KYBではエネルギーや水、化学物質など多様な資源を利用しています。限りある資源を効率よく生産するために排出される廃棄物やCO<sub>2</sub>などの低減を図っています。

### INPUT / OUTPUT



### ISO 14001 認証取得

環境保全への取り組みを体系的に展開するため、国際規格であるISO14001環境マネジメントシステムの導入とその推進を図っています。更新審査においては2015年度版に順次移行します。

#### ● 国内

工場名	認証登録年
KYB	
岐阜南工場 (含む岐阜東工場、生産技術研究所、工機センター、KMS)	2000.2
相模工場(含む 基盤技術研究所、電子技術センター)	2000.12
熊谷工場	2000.12
岐阜北工場(含む KYB金山)	2001.12
国内関係会社	認証登録年
KSM(三重工場)	2000.12
タカコ(滋賀工場)	2003.2
KYB-YS	2004.4
KYBトロンデュール	2008.11

#### ● 海外関係会社

社名	認証登録年	社名	認証登録年
KMT(台湾)	2001.6	TVC(ベトナム)	2007.1
KSS(スペイン)	2001.6	KMB(ブラジル)	2007.3
KYBSE(スペイン)	2001.12	KIMZ(中国)	2009.4
KAC(アメリカ)	2002.5	KMCZ(チェコ)	2009.8
KYBT(タイ)	2003.7	KLRC(中国)	2010.1
KST(タイ)	2003.8	KWT(中国)	2013.11
PT.KYB.I(インドネシア)	2004.11	TAC(アメリカ)	2013.2
KMSB(マレーシア)	2005.5	KMV(ベトナム)	2013.5
KSMSB(マレーシア)	2005.5	KAMS(スペイン)	2015.6

### 編集方針

本報告書は、事業活動を行うに当たって、環境や社会に関わる情報をステークホルダーの皆様にはわかりやすくお伝えすることを目的に環境報告ガイドラインなどを参考に編集しています。2017年度版では、環境に配慮した新しい技術や省エネ活動、人財の活用、地域社会との連携などについて多くの具体的な活動事例をご紹介します。また、世界中に拠点を持つKYBグループとして、海外での取り組みも随所でご紹介しています。

今後とも、よりわかりやすい報告書の編集を目指してまいりますので、ステークホルダーの皆様のご意見をお聞かせください。本レポートの内容は、当社のwebサイトにも掲載されていますので、ぜひご覧ください。

<http://www.kyb.co.jp/company/csr.html>

## ◆ 環境関連データ

### ● CO<sub>2</sub>排出量



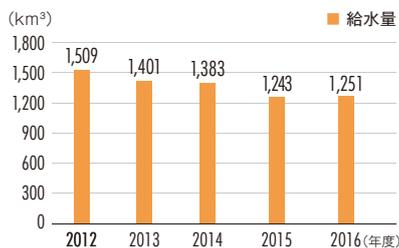
### ● エネルギー使用量



### ● 廃棄物排出量



### ● 水使用量・排出量



### ● 輸送に関するエネルギー量



## ◆ 環境会計

環境省が示す環境会計ガイドライン2005年版を参考にし、投資額と費用額に区分して集計しています。

単位:百万円

コスト分類		主な内容	投資額	費用額
(1) 事業エリア内コスト	(1)-1 公害防止コスト	・大気汚染、水質汚濁防止活動 ・公害防止設備の保守・点検 ・大気、水質などの分析、測定	73.6	118.4
	(1)-2 地球環境保全コスト	・エネルギー転換 ・省エネ活動	41.0	15.9
	(1)-3 資源循環コスト	・工場廃棄物の再資源化 ・産業廃棄物の減量活動	85.9	202.2
(2) 上・下流コスト			0	0
(3) 管理活動コスト		・ISO14001の維持・管理 ・環境負荷監視	1.1	71.3
(4) 研究開発コスト		・環境に優しい製品開発 ・軽量化、有害化学物質の削減製品	60.0	94.0
(5) 社会活動コスト		・事業外の環境保護に伴う支援 ・工場周辺の緑化、景観維持	0.2	11.4
(6) 環境損傷対応コスト			0.0	0.0
(7) その他のコスト		・内部環境保全 ・福利厚生保全	1,143.6	20.0
合計額			1,405.4	533.2
総額			1,938.6	

環境保全コストの分類と定義 投資額 対象期間における環境保全を目的とした支出額で、その効果が数期にわたって持続し、その期間に費用化されていくもの  
費用額 環境保全を目的とした財・サービスの消費によって発生する費用または損失。

### ● 対象期間

2016年4月～2017年3月  
(一部期間外の取り組みや報告も掲載しています)

### ● 対象範囲

KYB株式会社および国内外の関係会社を対象としています。  
各種の環境データに関しては、特に注記のない場合はKYB株式会社  
(相模工場、熊谷工場、岐阜北工場、岐阜南工場、岐阜東工場)の  
データを示しています。

### ● 発行時期

2017年6月 (次回: 2018年6月予定、前回: 2016年6月)

### ● 参考にしたガイドライン

■ 環境省「環境報告ガイドライン2012年版」

### ● 将来の見通しに関する注意

本報告書には発行日時点における計画や見通し、経営計画・経営方針に基づいた将来予測を含んでいます。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報によって判断しており、諸条件の変化によって異なる可能性があります。ステークホルダーの皆様には、以上をご了承いただきますようお願い申し上げます。



*Our Precision, Your Advantage*

[www.kyb.co.jp](http://www.kyb.co.jp)

お問い合わせ

**KYB 株式会社**

環境・安全部

〒105-6111

東京都港区浜松町二丁目4番1号世界貿易センタービル

TEL.03-3435-6465 FAX.03-3436-6759

用紙での配慮



**森の町内会**  
この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



**FSC® 認証紙の使用**  
適切に管理された森林の木材を原料にしている紙を使用しました。

印刷での配慮



**グリーンプリンティング**  
環境に配慮した印刷工程と印刷資材を採用しています。



**Non-VOCインキの使用**  
VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの環境に配慮した100%植物油インキを使用しました。



**水なし印刷**  
有機物質を含んだ廃液が少ない、水なし印刷方式で印刷しました。